

「愛し愛される病院」を

本部職員に囲まれる中村会長
(前中央) 背景に写る「愛し愛される病院」が引き継がれていく=2015年1月



最近、隆俊はベッドで母校北大の寮歌のCDを聞きながら、低く声を出されてきた。泰之氏が、齊藤氏について子息裕氏が後を継いでいる。齊藤氏について現在、子息裕氏が後を継いでいる。修氏亡き後は、8月31日の命日のたび、焼香に果物を持って訪れてきた。

泰之氏が、齊藤氏については子息裕氏が後を継いでいる。齊藤氏について現在、子息裕氏が後を継いでいる。修氏亡き後は、8月31日の命日のた

医師会では、理解を示して応援してくれる医師たちもいた。こういう人たちとは長年、友情を通じてきました。そのうちの一人が中村富一氏で、もう一人が齊藤修氏。中村氏については現在、孫の

「黒船来航」と地元医師会からは非難され、艱難辛苦のスタートでした」

24) 年8月、戸田中央総合病院の50周年記念誌にこう書いた。「振り返ると、本日の日を迎えるまでには幾多の難局があり一言では申し尽くせません。ただ不变なことと言えば『懸命に働く』ことを地道に積み重ねてきたことです。開院当時は

隆俊は2012(平成24)年8月、戸田中央総合病院の50周年記念誌にこう書いた。「振り返ると、本日の日を迎えるまでには幾多の難局があり一言では申し尽くせません。ただ不变なことと言えば『懸命に働く』ことを地道に積み重ねてきたことです。開院当時は

**戸田中央医科グループ創設者
中村 隆俊の半生**

朝雲流れて
金色に照り

【第9話】

使命継承に確信

3人の背中を見てきた息子たち、そして1万3414人(3月現在)に及ぶ戸田中央医科グループ(TMG)のスタッフたちが「愛し愛される病院」を引き継ぎ、グループのこれから50年をつないでいってくれると、隆俊は確信している。(敬称略)
この連載は依田英男、岸鉄夫、中野えみりが担当しました。

して歌つ。「朝雲流れて金色(こんじき)に照り平原果てなき東(ひんがし)の際(きわ)連なる山脈(やまなみ)玲瓏として今しも輝く紫紺の雪に……」。寮歌を5番あたりまで聞くと、いつも涙が流れる。歌の情景はふるさと瀬棚の風景とも重なる。

「少年よ大志を抱け、というクラーク博士の別れの言葉のそのあとを知っていますか。『Boy is a boy old man』(私のことき老人のように)と言つたんです。これが大事だ」と隆俊。これが大事だ」と隆俊。最近は「私は生涯現役。そして生涯独身」と軽口

現在、兄哲夫(07年没)の板橋中央医科グループ(イムス)、弟秀夫の上尾中央医科グループ(AMG)を合わせた医療グループは日本最大級に。中村3兄弟が互いに協力しながら幾度となく困難を乗り越えてきた結果である。

をたたき、若い女性看護師たちを笑わせる。興に乗ると初恋の話もしたりする。3兄弟が牛込矢来町に住んでいたころ、東京芸大の学生に一目ぼれした。逗子でデートし、しかし駄目だった。隆俊は「あのころ、兄弟3人で板橋の病院をつくるのが最優先で、そちらに一生懸命だったから私も諦めた」と言う。2年前、いろいろな縁がつながり、その人と再会。いま、その人は月に一度、グループ傘下の老健施設で音楽セラピーを開いてくれている。

現在、兄哲夫(07年没)の板橋中央医科グループ(イムス)、弟秀夫の上尾中央医科グループ(AMG)を合わせた医療グループは日本最大級に。中村3兄弟が互いに協力しながら幾度となく困難を乗り越えてきた結果である。

息子たち、そして1万3414人(3月現在)に及ぶ戸田中央医科グループ(TMG)のスタッフたちが「愛し愛される病院」を引き継ぎ、グループのこれから50年をつないでいってくれると、隆俊は確信している。(敬称略)
この連載は依田英男、岸鉄夫、中野えみりが担当しました。

||おわり||